



真由美さんが、高校三年生の時の遙学園『卒園・卒業を祝う会』での集合写真

感謝 水上の友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
〒618-0001
大阪府三島郡島本町
山崎5丁目3-18
発行人 水本行彦
編集 広報委員会
法人事務局 075-961-0711
FAX 075-961-1144
http://www.osakasuijorinpkkan.com/
印刷所 (有)木村桂文社

これから友だちとして

真由美

遙学園に来るまでは、親がご飯も作ってくれないような生活で、とても大変でした。当時四歳だった私は、賞味期限の見方もわからず、冷蔵庫から食べられそうなものを見つけては、変な臭いがしないかを確認しながら、きょうだいたちに食べさせていたことを覚えていきます。

そんなある日、遙にきました。私は一時的に避難しに来たぐらいの気持ちでいました。しかし、何日たっても迎えに来てもらえず、遙に来た当日よりも、迎えに来てもらえないことを感じた時の方が、悲しかったです。

姉や弟、妹と一緒に入所したので、肩を寄せ合い、協力し合って遙で過ごしていたことを覚えていきます。でも、親が迎えに来てくれないことが悲しい私の横で、姉はどんどん施設に馴染んでいることに戸惑いました。

親とは、たまに面会や外出をするよ

二〇二六年標語
隣人を自分のように愛しなさい
—マタイによる福音書一九章一九節—

うな交流がありました。「やっと迎えに来てくれた」と思ったのに、帰り際には「またな」と帰っていく親に対して「え？連れて帰ってくれないの？」という思いを抱きながら、結局高校を卒業するまで、私たちは遙で過ごしました。

退所後も、私たちを育てることもなく、引き取ることもしなかったのに、収入が得られるようになった私に「お金貸して」と頼ってきたり、一緒に暮らすことを打診してきたりしました。

私は「あり得ない」と、迷うことはありませんでした。この気持ちは弟や妹も同じでしたが、姉だけは家で暮らし、記憶や、親からしてもらったことなどの思い出もあるためか、親に歩み寄る姿を見せました。

このことをきっかけに、姉とは距離を置くようになりました。同じ親を持ち、同じように遙で育ち、長く一緒に暮らししてきたきょうだいでも、親から何かを与えられた姉と、親から搾取されることはあっても、与えられたものがほとんどない私たちには、差があったんだなと痛感しました。

退所後も、きょうだいのことや親のことで困ったことは、何度もあります。そんな時、遙の先生たちがいることを思い出してきました。とくに、私

が高校二年生の時に担当してくれた先生とは、今でも交流を続けています。その先生は、退所する時の寄せ書きに「これからは少し年の離れた友だちとして、引き続き会おうね」と書いてくれました。『職員と施設の子』ではなく『友だち』と書いてくれたことが嬉しくて、今では何でも相談できる友だちとして、心強く支えてもらっています。

大変なこともありましたが、就職・結婚・出産を経て、今では子育てをしながら、弟や妹との時間も引き続き大切にしていきたいです。

(遙学園 二〇二一年卒園)

クリスマス

おめでとうございます



すべての人との平和を追い求め、また、きよくなることを追い求めなさい。きよくなるならば、だれも主をみることはできません。

—ヘブライ人への手紙 二章一四節—

戦後八十年、平和について考える年でした。未だ戦争や紛争が絶えない地域があります。子どもたちに日々の安心と心からの笑顔が一日も早く与えられますように。

社会福祉法人 大阪水上隣保館

みんなの広場



プチブロック博物館 (ひびき 小学生男子)

プチブロック博物館

プチブロックが得意なBくん。居室で『プチブロック博物館』を不定期に開催します。

職員には手書きの招待状が届き、見に行ってみると、作った作品がきれいに展示してあります。「これは、チャーハンモンスター、寿司わさび大王、自動バイク、ファイヤーレスキュー、ポリス…」と次々と説明してくれます。

数ある作品の中で、今回の目玉は『こたつ』です。こたつの上にはミカが入ったカゴが乗っており、裏を見るとオレンシ色のヒーターまで再現されています。触って良い作品には「さわってみよう」と書かれたプレートまで付いている徹底ぶり。次回の『博物館』も今から楽しみですね。

(ひびき 職員)

藤の里保育園で見つけた先生、あのね…

● だいじょうぶ？

スポンを前後ろ反対にはいている子だったので、

担任「スポン、前と後ろ反対じゃない？」

園児「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

(三歳 男児)

● ドキドキ！

園児「せんせい、ドキドキする」

担任「心臓が動いているからドキドキするよ」

園児「でもドキドキするねん…ひっく〜ひっく〜」

※しゃっくりのことでした。

(四歳 男児)

● カミ？

園児「せんせい、鼻にカミ入ってる」担任はティッシュが入っているのか？と思い見てみるが…

担任「何も入っていないよ」

園児「カミ入ってる、カミ入ってる」と、ジェスチャーで自分の頭の髪の毛をつまんで…

※鼻毛のことでした。(四歳 男児)



▼「皆、それぞれの場所ががんばってるなあ、私ももうひとふんばり」と、元気づけられます。(兵庫県神戸市 H・Y 八十三才)

(兵庫県神戸市 H・Y 八十三才)

▼昭和三十八年卒業生です。当時私は真組ホーム、藤本先生でした。壁には『ウィリアム・マキネス館』のプレート板が貼り付けられていました。今でも鮮明に覚えています。懐かしいです。(大阪府平野区 大村 博)

(大阪府平野区 大村 博)

▼五十五年前の実習生です。たくさん学びがあり、感謝しています。(大阪府富田市 齋藤壹・祥子)

(大阪府富田市 齋藤壹・祥子)

▼入所していたのは三十八年程前になります。十年ほど前に、乳児院にお世話になっていただき、隣保館を訪ねさせていただきました。その時に一歳が二歳ごろに隣の担当だった職員さんがいらつしやり、話をすることができました。また後日、退職したその職員さんからは、就職祝いとお手紙をいただいで、とても嬉しかったです。それから、ずっと寄付がしたいと思っていましたが、やっと実現することができて、私も嬉しいです。

(東京都世田谷区 齋藤信子)

▼学ぶ「喜び」の大切さ

二〇一七年度よりひびきで、中高生の学習支援を行っている『学習サポート教室』で学ぶ『代表の宮原と申します。私どもは、二〇〇九年度より発達障

がいの子どものための学習支援を大阪、奈良、東京にて行っていますが、京都文教大学の川畑先生のご紹介により、ひびきで学習支援を行うことになりました。

ひびきでは中高生を対象に、主に高校・大学の受験指導を行っています。日頃、学校以外での学習経験が少ないひびきの子どもたちに学習を支援するにあたり、大切に行っていることがあります。

どうしても学習を意欲的にしない子どもがいました。「どうして、そんなに勉強が嫌なの？」と私が尋ねると、その子どもは「先生、僕らには希望がない、だから勉強しても意味ないねん」と答えました。私はその言葉に大変ショックを受けました。あらゆる意欲というものは、希望があつて初めて湧き出てくるものだということを教えたのです。

学習に対する意欲も同じです。この経験をいつも胸に刻みながら学習支援をしてきました。これから子どもたちにも少しでも希望を与え、学ぶ喜びを与えることが、私どもの役割だと思っております。

(学習サポート教室) 代表

宮原一恵

児童養護施設 遙 学 園

高校生プロジェクト〜草抜き編〜

高校生プロジェクトのご報告をするのは、三回目になります。今回は、遙学園のある島本町の第四小学校、引き続き第二小学校のグラウンドの草抜きをしました。

八月に、第四小学校の校長先生から「高校生プロジェクトでグラウンドの草抜きをしてもらえないか」という依頼をいただきました。施設長が以前より、高校生プロジェクトの活動について話していたことを校長先生が聞かれ、グラウンドの整備に苦労されていたらしく、お声がかかりました。

炎天下の中、熱中症対策も万全に、ひたすら作業をします。雨も少ない時期だったこともあり、草抜きには悪戦苦闘しました。また範囲も広く、なかなか成果も見えない作業だったので、手よりも口の方がよく動く高校生もいました。それぞれのペースでコツコツと進めていきました。

さすがに、グラウンドに生えた草をすべて抜ききることはできませんでしたが、作業終了時には、第四小学校の校長先生からの労いのお言葉と、冷たい飲み物をいただきました。

続いて、九月には遙学園の子どもたちが通う第二小学校からも「うちでも

是非草抜きをしてください」と校長先生からお声がけいただき、暑さの残る中、黙々と励んできました。

どちらの作業中も、遙学園から高校生たちが草抜きに来ていると聞きつけた先生方が、子どもたちや職員に声をかけて来てくださり、頑張る姿を見てもらうことができました。

高校生プロジェクトは、敷地内の清掃やペンキ塗りに始まり、西成での炊き出し、被災地でのボランティアなど活動内容も広がってきています。今回のように、自分たちが生活する地域での活動ができたことも、大きな意味があったと思います。

社会の一員として貢献できることを子どもたちと一緒に考え、やりきったという経験を積み重ねていくことで自信につながるよう、このプロジェクトを続けていきたいと思っています。

(指導員 島村裕弥)



児童養護施設 翼 (つばさ)

小さな一歩の積み重ね

施設職員として三年目を迎えた年、私は中学二年生のAちゃんの担当になりました。Aちゃんは、新しいことに對して不安を感じやすく、特に一人で外出することに抵抗がありました。しかし、困っている人を見ると進んで声をかけるなど、人懐っこく明るい一面をもっています。

ある日、Aちゃんは一駅先の本屋に一人で行き、帰り道がわからなくなっていました。当時は携帯電話を持っていなかったため、不安だったと思いますが、近くの女性に声をかけ、無事に帰ることができました。この出来事をきっかけに、公衆電話の使い方も困った時の対応を一緒に学びました。

高校進学を前に、電車やバスの乗り方も職員と一緒に練習しました。最初は、慣れない地名に不安そうな表情を見せていましたが、目的地に近づく頃には「こっちだよ」と自信を持って言えるようになりました。また、携帯電話を持つようになったからは、自分で案内板と携帯電話を交互に見ながら判断できるようになりました。その姿を見て、私は大きな安心感を覚ええました。

今では、不安な時には「練習したい」

と自分から発信できるようになり、駅に着いた時やバスに乗った時には、必ず報告のメールをくれるようになりました。大人が近くにいなくても、メールでつながることで安心感を得ているのかもしれません。

そして、高校生になったAちゃんは、今年一人で実習に行く機会がありました。道に迷ったものの、落ち着いて施設に連絡し、実習先にも「本日から実習をさせてください」と自分で電話をかけ、遅れることを丁寧に伝えることができました。自信をもって何事にも挑戦する姿を見ると、頼もしく成長したと実感しています。

環境変化には不安が伴いますが、それが成長のきっかけになることを改めて学びました。これからも一人ひとりのペースを大切にしながら、その小さな一歩を応援し続けたいと思います。

(児童指導員 松村沙和子)



児童心理治療施設

ひびき

心の動きとスキンシップ

私は、看護師として外科、精神科、乳児院を経験し、二年前にひびきに来ました。その精神科（日本で数少ない自閉症などを抱える児童のための医療型の入所施設）での経験が今に繋がっていると思っています。

ひびきの子もたちは、慣れない大人に対して警戒心が強い面があり、初めの頃は、新任なのに年配である私は全く近付こうとせず、声をかけても知らんぷりでした。しかし、キャンプやプール、花火といった行事を共に体験する中で一気に距離が縮まり、徐々に関係が築けてくると、今度は逆にびっくりする変化がありました。

それは、スキンシップの嵐です。乳児院で経験した、二歳児がするような行動が小学生や中学生にも見られるのです。それも、日ごろ散々、私に不満を言っている子どもたちが…。思春期の子どもたちの不相应なスキンシップに、当初はとても戸惑いました。膝の上に乗る、マッサージやおんぶ、膝枕での耳かき、職員のスリッパを履きたがるなど、あの手この手で甘えてきます。

バウンダリー（人との境界線）の曖昧な子どもたちでもあるため、受けと

めるとしても、何でもいいわけではないなあ、と思いつつ、乳児院時代に学んだ、ふれあい遊びをやってみたらどうだろう、と考えました。

乳幼児ではないので限界もあります。が、ふれあい遊びの定番『バスに乗って』や『きゅうりができた』など、歌に合わせて体を揺らしたり、トントンする遊びをやってみると、高学年の子どもも大喜び。

甘えただけではありません。不安なことや、不快なことがある時にも、子どもたちはスキンシップを求めます。心のありようがそこに表れるのです。特に、普段はあまり寄ってこない子どもが求めてきた場合には「何かあるのかな？」とアンテナを張るようにしています。子どもたちの気持ちに寄り添いつつ、安心感を与えるにはどうしたら良いのか、模索している日々です。

（ケアワーカー 唐津めぐみ）



乳 児 院



夢の中では職員さん

夜中に起きていた子どもを寝かしつけていたら、その隣で寝ていたAちゃんが、寝ぼけて「Bくん」と優しく言いながら、急に布団をトントン叩き始めました。夢の中で職員になってBくんを寝かしつけているようで、とても微笑ましい気持ちになりました。

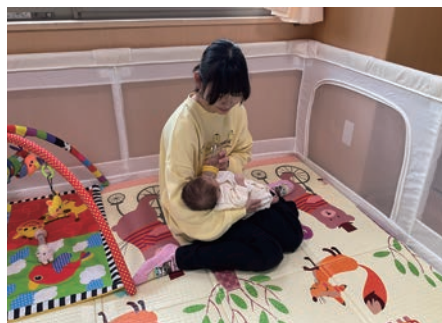
（児童指導員 岡島有沙）

♡メロディーを奏でる

八カ月のCちゃんは音の出るおもちゃがお気に入り、メロディーが聞こえると体を左右に揺らします。そのうちおもちゃの音が消えても、体を揺らし続けています。記憶がつき始めたCちゃんの中では、ずっとメロディーが流れているのかなと思うとほっこりします。

（保育士 藤本千草）

は ば た き



小さな命

四月の開設と同時に入職し、無事に半年を迎えることができました。当初は子どもが一人だけでしたが、次々と入所する子どもが増え、今はほぼ定員いっぱい状態です。それも生後間もない小さな赤ちゃんばかりです。

初めて抱っこをした時は、柔らかくてそれだけでとても緊張しましたが、今は抱っこにも慣れてきて「Aちゃんが終わったらBちゃんね」と、ミルクだけでも大忙しの毎日です。たくさん飲んで日々成長していく小さな命に、私の方が元気をもらっています。これから子どもたちの成長を見守りながら、自身も子どもたちに負けないよう成長していきたいと思っています。

（保育士 松浦千尋）

特別養護老人ホーム
弥栄の郷 (やえのさと)



ホーム喫茶開催

九月十四日、弥栄の郷ホーム喫茶を行いました。絵の得意な職員が、ホワイトボードにイメージイラスト・メニューを描きました。食堂で行いましたが、カフェを意識し、BGMを流して雰囲気演出。利用者の健康状態に合わせてゼリーやケーキ、カフェオレを提供しましたが、私も食べたくなるほど、美味しそうに食べておられました。最後に「楽しかった」「美味しかった」などの感想をいただき、非日常を過ごしていただけたのではないかと思います。今回のイベントが大盛況だったので、今後も楽しんでいただけるような企画を行い、良い思い出にしてもらえればと思います。

(介護職 福島慶真)

障害者自立支援拠点
レモンテラス



変身あそび、車で出発!

児童発達支援の子どもたちは、月毎の活動を楽しんでいます。今月は消防士や警察官、宅配業者などの職業に変身しました。職員お手製のアイテムを身に付け、牛乳パックで作った車に乗って出発!床に描かれた道路を足裏の力を使ってこぎ進めます。

消火器を片手にポーズをとったり、小包を「お届け物です」と笑顔で渡し、それぞれの職業になりきる子どもたち。「次はあのお仕事やりたい」と意欲的に楽しんでいました。

小集団の活動を通して、人との関わりや順番を待つなど、様々な経験を積み重ねる中で、更に興味が広がるよう支援していきます。

(支援員 島村 梓)

大阪保育福祉専門学校



HOSENのキッチン

昨秋より、事務所に某お菓子メーカーの置き菓子システムを導入しました。それだけHOSENが、豊かすぎる自然環境の中におかれているということなのでしょう。

すると、なんと全国の専門学校の中でも、売上が断トツ一位という人気ぶり。それだけHOSENが、豊かすぎる自然環境の中におかれているということなのでしょう。

とにかく朝から夕方まで、ひっきりなしに学生がやってきます。保健体育の授業後にはドリンク類、夏にはアイスが即売場に。「冷蔵庫、開けっ放しはダメ」、「先生、豚キムチ味一回食べ比べてみてよ」といった教職員とのやりとりは、まるでキッチンにいるかのような空気感。誰もがほっと一息つける場になっていきます。(副校長 植田彌生)

山崎幼稚園



キャロリング

毎年、クリスマス前の時期にキャロリングを行います。園を出発し、高槻市上牧・島本町方面と大山崎町・長岡京駅前方面の二コース各五箇所を園のバスで回ります。二台のバスが園に戻ってくると、最後は園庭です。

子どもたちはローソクを手に持ち、職員から火をもらい、みんなで讃美歌を歌います。寒い中ですが、在園児だけでなく卒園した子どもたちも楽しみに参加してくれています。

神様は世界中を明るく温かくするために、この世にイエス様をお与えくださいました。ローソクの灯りを見てほっとするのは、そこにイエス様がいてくださっているからかもしれません。

(事務職員 東 世津)

山崎保育園



ただいま忍者の修行中

「忍者さんから手紙が来た」と、目を輝かせて保育室に駆けこんでくる子どもたち。春先から忍者遊びが流行しています。忍者からの修行の手紙が届くたびに、あらゆる場面で忍者に変身しています。「廊下は走らないで」と言われれば「忍法変化の術!」「忍者は誰にも気づかれないように歩くんやで」と、子ども同士の可愛いやりとりが聞こえてきます。

遊びを通していろいろなことを想像したり、体験したりと、心躍る日々。季節は移り替わっても、子どもたちの忍者修業はまだまだ続いています。その成長の一つひとつを、これからも温かく見守っていきたいと思います。

(保育士 高橋達也)

認定こども園 藤の里保育園



うれしい世代間交流

今、将棋に夢中の子どもたちがいます。というのも、高槻市が始めた六十歳以上の市民を対象にした『健康生きがい就労トライアル事業』で、当園にも保育補助や掃除で五名の方が現在トライアル中です。中には、子どもと将棋をして遊んでくれる方もいます。

まったく将棋を知らない子どもに対しても、一緒に考えたり、じっと待つてくれるなど、寄り添いながら将棋の楽しさを伝えてくれます。その空間にはいつも穏やかな時間が流れています。高齢の方と関わる貴重な時間と経験を、子どもたちには大切にして欲しいです。『将棋のまち高槻』から未来のスターが誕生するかもしれませんね。

(保育教諭 高森佳代子)

里親支援センター おひさま



里親月間イベントを開催しました

十月四日、枚方市総合文化芸術センターで『十月は里親月間〜広がれ!子ども笑顔〜』と題し、枚方市との共催イベントを開催しました。

午前は、児童養護施設の映画『大きな家』の上映。続いてのトークセッションは、元児童相談所所長や逢学園施設長の他に、養育里親をされている方(養育里親をしていた)を招いて実施しました。

午後は絵本作家の谷口智則さんによる『いろんな家族のかたち』というテーマで読み聞かせとライブペインティング。子育て世帯の人にも里親制度を広く伝える機会となりました。

(里親支援ソーシャルワーカー 伊藤尚子)

ファミリーポートたかつき



安心して子育てをするために

集いの広場では親子が安心して遊び、親同士語り合える場所として、毎日穏やかに過ごしてもらっています。九月は地域の助産師さんを招いて、卒乳と断乳に関する講座を開催しました。仕事復帰を控えていたり家庭で子育てをしているお母さんなど、多くの方に参加していただきました。

参加したお母さんたちは、子どもの気持ちやご自身の体調などを踏まえて、無理のないよう卒乳や断乳を進めていくことが大切だと学ばれたようでした。これからも地域の方々の子育てをお手伝いできるような講座を取り入れ、親子で成長を喜び合える広場にしていきたいと思います。

(保育教諭 岩本和代)

社会福祉法人 大阪水上隣保館 [児童福祉 95年]

大阪保育福祉専門学校

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-10 TEL.075-962-1115 FAX.075-962-9001



1 2 専門学校・本館・オリブ館



3 専門学校・中村記念館



4 児童養護施設 遙学園



児童養護施設 翼 (豊中市)



乳児院はばたき (豊中市)



児童心理治療施設 ひびき



9 山崎幼稚園



10 山崎保育園



つどいの広場 (子育て支援) ばんだのいえ (島本町)



障害者自立支援拠点 レモンテラス (島本町)



11 さくら館



認定こども園 藤の里保育園 (高槻市)



ファミリーポートたかつき (高槻市)



大阪水上隣保館乳児院



地域交流センター・ゆりの礼拝堂



特別養護老人ホーム 弥栄の郷



大阪水上隣保館附属診療所 さくらクリニック (島本町)



子ども家庭支援センター・ファミリーポートひらかた (枚方市)



ファミリーポートサプリ村野 (枚方市)



里親支援センターおひさま (枚方市)

豊かな自然環境の中でキリスト教の愛の精神に基づいた人格形成をします

山崎幼稚園

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-1 TEL.075-961-3341 FAX.075-961-7296
ホームページ www.yamazaki-k.ed.jp